

動物の死体を見つけたら

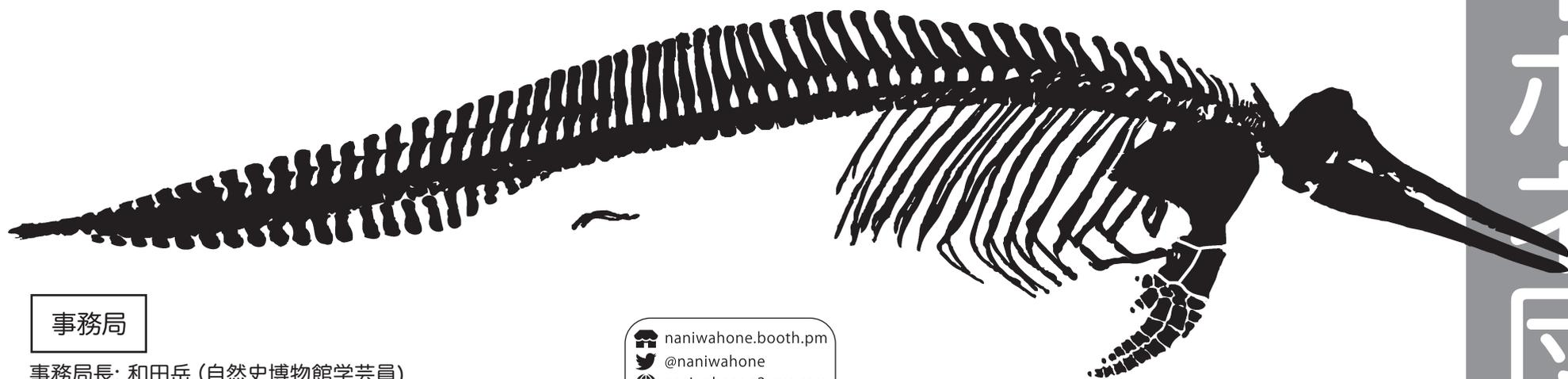
ホネホネ団事務局まで
お問い合わせ下さい

なにわホネホネ団 (=大阪市立自然史博物館) では、交通事故にあったり、窓ガラスに衝突したり、海岸に漂着して亡くなった、鳥や哺乳類をはじめとする脊椎動物の死体を貴重な資料として収集しています。届けられた死体は、適切な処置を経て、標本として博物館で未来にわたって大切に保管されます。動物の死体を見つけたら、まずは「なにわホネホネ団」へご一報下さい。

(動物の死体は、地域の自然の情報源でもあります。ご連絡いただいた地域に、死体を集めている博物館があれば、そちらをご紹介させていただくこともあります。)

【死体の届け方】

- ・博物館に直接持ち込んだり、送ります。大きなものでどちらも難しい場合は、お知らせ下さい。
- ・送る場合には、採集データを書いたメモを同封して下記までお送り下さい。
- ・採集データとは、いつ(拾得日)どこで(拾得場所)だれが(拾得場者)を記録に残すためのものです。
- ・できれば新聞紙やタオルに包みます。爪などで袋が破れやすいので、足先を包むように巻いて下さい。
- ・保冷剤や氷とともにビニール袋に何重かにくるんで下さい。
- ・いま以上に傷まないよう、基本的に冷凍(クール)便でお願いします。着払いでも受け取れますが、事前にメールや電話でご一報下さい。



事務局

事務局長: 和田岳 (自然史博物館学芸員)

〒546-0034

大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館

電話: 06-6697-6221 / FAX: 06-6697-6225

メール: wadat@omnh.jp

 naniwahone.booth.pm
 @naniwahone
 naniwahone.g2.xrea.com

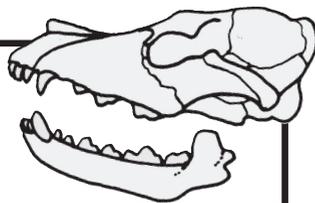


2024.07更新

○みんなで楽しく、博物館の標本をつくるサークル
なにわホネホネ団

SINCE
2003

ようこそ! なにわホネホネ団へ



目的 楽しくまじめに標本づくり!



博物館を拠点に、哺乳類や鳥の標本（骨格標本・なめし皮・仮はく製など）の作成をお手伝いしているサークルです。

2003年に活動を始めて以来、子どもも大人も一緒になって、博物館に寄贈された動物の死体を解剖して、体のつくりを学んだり、標本作成の技術をみがいています。その活動から見てきた生きものの魅力、標本の価値をみんなに伝えるための普及教育活動もおこなっています。自然科学系のイベントに出展したり、ワークショップを企画しています。

入団したい・見学したい



入団希望者には、まず一度なにわホネホネ団の活動を見に来ていただき、その上で入団するかどうか相談させていただきます。

なにわホネホネ団の活動は、ある意味で人による向き不向きがありますし、活動理念に合わない方もいると思います。実際の活動を見て入団するのをやめる方もいるでしょうし、一緒に活動するのに向いていないと判断した場合、こちらからお断りする場合もあります。この点、ご理解下さい。最終的に、入団を認めるかどうかを判断するのは団長と副団長です。

入団資格

タヌキサイズの哺乳類の皮をひとりで剥けることが目安です。原則として、入団希望者には入団試験（タヌキ一頭一人で皮剥き）を受けていただきます。

見学するには

活動を見学したい方は、事務局の和田 (wadat@omnh.jp) までメールでお知らせ下さい。その際、次の情報をお知らせ下さい。

- ・氏名
- ・年齢（おおまかにかまいません）
- ・住所（おおまかにかまいません）
- ・入団を希望する理由（見学だけで、入団を希望しない場合は、見学したい理由）
- ・なにわホネホネ団で何をしたいか
- ・今までに皮を剥いたり、骨取りをした経験
- ・なにわホネホネ団について、どこで知ったか

注意事項



・皮剥きや骨格標本作成などの作業を行います。メスなどの刃物を用いますし、野生鳥獣は病気を持っている事もあります。十分な安全対策はしていますが、それでも多少のリスクをとまなう事をご理解下さい。またメスを持ってぶざけるような方の参加は、こちらからお断りしますので、ご了承下さい。

・標本作成のために、動物の死体の皮を剥いたり、骨にしたりします。これが我慢できないほど気持ち悪い方は、見学に来るのも止めた方がいいと思います。

・標本にする動物の死体の多くは、野外に落ちていたのを拾ってきたものです。拾うまでに時間が経っていると、腐りはじめている場合があります。そんな死体の皮を剥いたり煮たりするのは、ハッキリ言ってもものすごく臭かったりします。この臭いが我慢できない方も、なにわホネホネ団の活動にはあまり向いていません。ただ、多くの人は、最初は臭いと思っても、作業を進めている内に、臭いには慣れてしまうようです。

見学の日の写真撮影はOKですが、公開ははなから！
何もしない人が、びびるかも

博物館の使命 標本はとっても大切!



博物館では、たくさんの標本が大切に保管され、研究や教育活動に用いられています。標本はその時代に生きた生物の情報を、一番確かに残すことができます。博物館は、二度と戻れない過去の情報をできるかぎり未来につなぐという使命をもっています。

<p>事故</p> <p>バードストライク</p> <p>ロードキル</p>	<p>狩猟・駆除</p> <p>わなにかかったネズミやアライグマ</p> <p>狩猟されたシカやイノシシ</p>	<p>漂着</p> <p>海鳥やウミガメ、スナメリなどが海辺に漂着します</p> <p>全長9mのマッコウクジラも標本にしました</p>	<p>動物園</p> <p>動物園や水族館でみんなの人気者だった動物たち</p>
---	---	---	---

さまざまな理由により亡くなった動物は、博物館に集められます

ホネホネ活動日。「死体」が持っている情報を「標本」にかえます

<p>まずは計測!</p> <p>タヌキなど 寄生虫の採取!</p>	<p>皮を剥いて なめす!</p> <p>内臓を採取!</p>	<p>骨から肉を外す!</p> <p>骨は煮たり腐らせてから 洗う!</p>
------------------------------------	---------------------------------	--

おホネ伝い団ではこの部分を

<p>哺乳類</p>	<p>鳥類</p>	<p>両生類・爬虫類</p>
<p>なめし皮</p> <p>骨格</p> <p>内臓・筋肉</p> <p>基本的には研究用の骨は組み立てません → 液浸標本 同じように皮もはく製にはしません</p>	<p>仮はく製</p> <p>内臓・筋肉 → 液浸標本</p>	<p>液浸標本にすることが多いですが、ホネホネ団では全身の骨格標本なども作っています。</p>

正式な登録番号がつき、未来に受け継ぐ準備がととのったら...

▶ 博物館の収蔵庫へ!

標本は研究や教育活動に用いられています